

〔徒然草文段抄<sup>五</sup>〕だうたん 壽云、大鏡師輔公の傳に、だうたせ給ふとありて、重六の沙汰あれ  
ば、雙六の事なり、瑤囊抄にも攤の事有、雙六博奕のやうにのせたり、攤の字恐らくは撒の字な  
るべし、攤の字、韻會他干切、手布也用也、按也云々、博奕の心なし、撒の字音埒、攤、補賭錢、瑤囊に攤  
の字書は誤歟、タン之音をたといふは、大鏡の假名を據とす、野云、攤、鮑宏博經、意錢者、何承天纂  
文云、詭億、一曰射意、一曰射數、即攤錢也、季吟云、野槌の説を見れば、攤の字も博奕の事に用ひて  
不苦にや、

〔羽倉考<sup>二</sup>〕筒筭之事

御産ノ儀ニ必筒筭ノ事アリ、或ハ筒筭ノ興事戲事ナド、アリ、或ハ打攤トアリ、御産部類記ニモ  
夥シク見エ、玉海安徳降誕ノ三夜五夜ニ、其儀式殊ニ詳ナレドモ、何様ノ事ヲ爲ト云コト書面ニ  
見エズ、元永二年ノ源禮委記ニ、置碁手紙、上達部料立、高坏、殿上人料折敷云々、大進取筒筭、置圓座、  
從六位至公卿、次第置集攤紙各一帖、次有擲筭之戲事ナド、見エタリ、蓋碁手ト云名ニ據バ、此紙  
ハ賭物ト見エタリ、公卿殿上人ニ各一帖ヅ、給ハリテ、下藩ヨリ次第ニ此紙ヲ持參シ、一所ニ集  
メ置キ、各筭ヲ擲テ貴筭ヲ得タル者之ヲ取事ナルベシ、和名抄ニ、後漢書註、桂苑珠叢抄等ヲ引テ、  
意錢ヲ攤ト見エタレドモ、筒及筭アルナレバ、意錢ニハ非ズ、攤トアルハ筭ヲ攤ノ義ナルベシ、然  
レバ所謂博ナリ、其産ノ禮ニ博ヲ爲ノ義ハ、據ドコロイマダ詳ナラズ、

〔安齋隨筆<sup>前編九</sup>〕一攤 貞丈按、攤も雙六のごとく塞を筒に入れてふり出す事ある歟、右玉海の文  
にて考べし、然ども雙六と同事にはあらず、和名抄雜藝類に、雙六と攤と別々に出せり、<sup>○中</sup>つれ  
づれ草野槌<sup>春林道</sup>攤ト鮑宏博經ニ、意錢者何承天が纂文ニ云、詭億、一ニ曰射意、一ニ曰射數、即攤錢  
也、貞丈云、漢土には攤錢と云て、手を以て錢をモム事ありと見ゆ、此方にて和名ゼニウチと  
云は、錢を的にして、別の錢を手にてモミて、的の錢を打ツやうの事にてありければ、雙六とは別